

開 会 挨拶

日本政策金融公庫副総裁 皆川 博美

本日は大変お忙しいなか、多くの皆様方にご来場いただきまして、まことにありがとうございます。第9回日本公庫シンポジウムの開催に当たりまして、ひと言ご挨拶申し上げます。

このシンポジウムは、私ども日本政策金融公庫のお客さまであります中小企業の方々が直面する今日的な課題をテーマに取り上げ、毎年開催しているもので、今回で9回目となります。昨年は「輸出で外需開拓に取り組む中小企業」をテーマに取り上げましたが、今年は「中小企業における外国人雇用の現状と課題」と題しまして、慶應義塾大学の樋口先生や、実際に自社で外国人を雇用、あるいは他社の外国人雇用をサポートする事業に取り組み、成果を上げておられる経営者の方々をお招きし、本日開催の運びとなりました。

皆様ご承知の通り、我が国の人口は既に減少に転じ、労働力の不足が広く認識されるようになってきております。私ども日本政策金融公庫が行っている調査においても、経営上の問題点として、求人難を挙げる企業が最近では増加傾向にあります。特に中小企業では人手不足が大企業以上に深刻な問題で、外国人の雇用はこれまで以上に注目されるようになりました。加えて、国際化が進むなか、海外展開や訪日観光客への対応など、日本人だけでは難しい事業を行うため、外国人がもっている知識や能力について着目されております。

中小企業においても、外国人の活用により、実際に成果を上げておられる方がいらっしゃいます。外国人従業員は単に人手不足解消のための存在ではなく、企

業の成長を支える存在になってきたと感じております。

本日は総合研究所の調査・研究の成果とともに、樋口先生の基調講演や、実際に開業し、業績を上げてこられた経営者の方々の現場でのご体験を踏まえながら、中小企業の外国人雇用の現状を確認し、その能力を活用するための課題や対応について、深く掘り下げた議論ができればと考えております。

なお、私どもの総合研究所に対しましては、日ごろから中小企業専門の研究機関として、中小企業研究で常に高い水準を追求するよう指示しております。そのためには、日ごろの研究成果を積極的に発信し、外部の方々から評価していただくことが何よりも重要です。このシンポジウムはその絶好の機会であると位置付けております。

ご参加いただきました皆様方から忌憚のないご意見、ご評価をいただき、総合研究所が目標とする水準に一步でも近づくよう、また、本日のシンポジウムがご来場の皆様方にとりましても価値のある内容のものとなりますことを願ひまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。

